

(3)活動の様子



家族に感謝の気持ちを伝えよう



心をこめたタンブラー作り



心をこめた箸作り



心のこもったタンブラー

4 成果と課題

(1) 今回の事業で学んだこと

今回のプログラムを自分が中心になって企画したことで、メンバーの性格や個性を活かすことができるような役割分担をする難しさを味わった。しかし、チームでの計画立案を通して、物事を多角的に見通すことができ、企画がより良いものになっていく楽しさも同時に味わうことができた。

実際のプログラム運営に当たり、チームで協力して入念に活動内容を計画することの大切さに加え、プログラムだけでなく、準備段階も含めた必要経費や時間を管理することの重要性も身に染みて感じた。それは、子どもたちの技量や思わぬアクシデントで予定した時間が前後する可能性を踏まえる必要があったからである。活動内容についても、試行錯誤を重ねることで子どもたちの安全をより確実に確保することができると感じた。

教育実習生と児童という、明確に立場の分かれる学校現場での経験に加え、親しみ易いお姉さんとして参加する社会教育現場での子供たちとの関わりを通して、より親密な関係を築くことができたと思う。初対面時には積極的に話しかけたり介入したりすることで子どもたちの緊張を和らげ、互いに慣れてきたら少しずつ介入の頻度を減らして、彼らが自分たちで活動を進めることができるようにするなど、事業の目的を意識した子どもたちとの接し方についても学ぶことができた。

(2) 今回の経験をどう活かしていくか

今回の経験から、学校外での個性豊かな人々との出会いは、子どもたちに大きな影響を与え、次の成長に繋がる重要なことだと考えた。そのような機会を現実のものにできる社会教育の大切さを感じ、今後も事業に参加していきたいと考える。今回得ることができた子どもたちとの接し方は、今後の教育実習や、別の社会教育事業に参加した際、子どもたちの性格や特徴をよく知るときなどに活かしていきたいと思う。

また、事業の企画・運営に関わることで得ることができたコミュニケーションスキルや時間、経費の管理の大切さは、次のイベントを企画するときはもちろん、自身の貯金を管理するときや、スケジュールを調整するときにも活かしていきたいと思う。